

令和6年度第2回狭山市総合計画審議会 会議録

開催日時 令和7年2月17日（月）午後1時00分～午後2時50分
開催場所 狭山市役所 6階 603・604会議室
出席者 16名
欠席者 4名
市出席者 市長、副市長、教育長、企画財政部長、総務部長、市民部長、
環境経済部長、福祉部長、こども支援部長、健康推進部長、
都市建設部長、都市建設部監、危機管理監、生涯学習部長、
学校教育部長、上下水道部長
企画財政部次長（行政経営課長兼務）、企画財政部次長（秘書課長兼務）
企画課長、財政課長

傍聴者 0名

議題等

1. 第4次狭山市総合計画実施計画（案）（令和7年度～令和9年度）について
2. その他

次回の会議開催等について事務局より説明した。

質疑

1. 第4次狭山市総合計画実施計画（案）（令和7年度～令和9年度）について

（資料1）

委員 医師会では、准看護学校の運営を担っているが、学生の確保に苦慮しており、若い世代を増やす取り組みには注目している。仕事と子育ての両立に向けて、働きながら子どもを安心して預けられる環境整備も大事になると思うので、引き続き注力して取り組んでいただきたい。

所管部長 これまでも待機児童の解消に向けて、施設整備等を推進し、定員の拡充を図っている。今後はより少子化が加速する中で、将来的な需要ギャップの動向も見極めつつ、一時預かりサービスなどのきめ細やかなサービスの充実を図っていく。

委員 入曽駅前の整備によって、今後も若い世代が増えると思うが、目新しい取り組みでなくとも、各公民館において、イベントや講座をはじめ

め、様々な取り組みを行っているので、そのことをもっと多くの市民にも知ってもらえると良いと思う。(意見)

委員 入曽駅までのバスでのアクセスが弱いと感じる。入曽駅から新狭山駅までのバスが1日1本だけである。新狭山駅から新狭山ハイツまでのバスを延長すれば、ニーズがあるのではないかと考えられる。その他の路線も、充実させる余地があるのではないかと。採算面での課題についても、行政がサポートしている自治体の事例も聞いている。

所管部長 地域公共交通活性化協議会を設置し、3月までに、地域公共交通計画も策定するなど、議論を進めている。その中では、茶の花号のルートなども見直しが必要であるということ、堀兼デマンドバスの実証実験も行っており、土地利用の変化に応じて、協議を進めていきたい。また、バス事業者も協議会には参加いただいているが、運転手不足が深刻であり、増便が非常に困難である状況があり、行政で補完する部分の協議を進めていきたい。

委員 自治会活動に、若い力をどのように取り込むのかということが長年の課題となっている。若い世代の関心が低く、協働やNPO活動にどう繋げていくのかという点についても同様に課題となっている。

会長 まさに、多くの委員が共通する課題であるのではないかと感じている。既存のやり方だけでは、若い人に魅力やメリットが伝わりづらい。若い人が魅力を感じる仕掛けがあると、新しい形で引き継がれていくと思うので、委員の中で、若い世代が関わっているところもあると思うので、委員間で引き続き情報共有が図られると良いと感じる。

委員 下水道点検について、資料には目視とあるが、どの程度まで行っているのか。市民の一人として、出来ることのあるのかもしれないので、その内容を確認したい。また、下水管を劣化させない、排水のモラルにも着目すべきと考えられるが、現状、どのようなになっているのか。

所管部長 目視による点検については、まずは、下水管が敷設されている道路上のひび割れやたるみがないかを確認している。また、硫化水素が発生しやすい場所は26か所把握しており、5年に1回の検査で今のところ異常は発見されていない。また、下水道の利用についても、HP等で使用方法を案内している。

委員 不登校の児童生徒、教室に入れない子どもたちが、過ごせる場所がほしいと感じている。

所管部長 スペシャルサポートルームとして、市内の 8 中学校区に設置している。教室には行かずに、基本的にはこの部屋のみで過ごしており、出入りも自由であるが、全て登校扱いとしている。スタートして間もないが、成果が出ていると感じている。

委員 空家の利活用について、水野公民館で空き家対策セミナーが開催されたが、同じような悩みを抱えている市民も多いので、単独の地区に限らず全市域に拡大してほしい。また、空き家の除却だけでなく、利活用やまちの賑わい創出にもつながるような複合的な視点でもご検討をいただきたい。

所管部長 補助制度については、令和 6 年度からスタートし、今年度は予算上限に達する申請をいただき、補正した経緯がある。まずはここに注力していきたいと考えている。その上で、今後は、駅前開発や都市計画道路の整備に取り組みながら、まちの賑わい創出にもつながるような利活用の方法についても、検討を進めていきたい。

委員 テーマ 3 のがん検診率の向上について、特定健診については、60%まで上げていくことが望ましいとされており、県平均を上回ってはいるものの、周知に課題を感じている。また、保健センターの改修についても、2 か年での改修が予定されており、その間、各医療機関への受入れも限界があるので、市と連携して進めていく必要がある。

会長 特定健診の受診率について、60%という目標値はかなり意欲的な数字であると感じるが、埼玉県が低い傾向にあるということなのか。

委員 県内でも高い自治体だと、50%は超えている。また、保健センターの改修が完了し、施設が新しくなれば、若い人たちも健診を受ける人が増えるのではないかと考えている。

所管部長 受診率向上に向けた市の取り組みについては、健康な間はなかなか関心を持っていただくことが難しいが、健診の種類によって、罹患する年齢が多い年代をターゲットに、勧奨通知を送るなどの対応をしている。また、並行して、初めて健診を受ける方は初回無料キャンペーンを実施している。最後に、保健センターの改修期間中の健康診断

については、場所を検討しているところであるが、引き続き、医師会との連携を図っていきたい。

委員 堀兼のデマンドバスについて、便利になったという話は聞いている。一方で、茶の花号がほとんど利用されていないと感じる。もう少し本数を増やしたり、バス自体を小型化するなどで対応するなどの検討は可能なのか。高齢者も免許も返納していて、買い物に不便している話を良く聞いている。

所管部長 茶の花号については、平成 30 年 12 月に運行を開始し、それ以降のルートの見直しは行っていない。現行ルートは、距離的にも長く、また、昨今の運転手不足もあり、増便は難しい状況である。今後は、コンパクトなルート設定など、堀兼デマンドバスの実証実験の状況も踏まえながら、最適なルートの検討を進めていきたい。

会長 難しい課題であるが、継続的な議論を進めていくことが何より重要であり、開発等によって、利用者の動向も変化するところもあるので、引き続き検討をお願いしたい。

委員 災害のトイレカーについて、災害以外の平時の際は、どのような利用がされるのか。電池として活用可能な車を聞いているがどうなっている。また、EVカーを蓄電池として活用する考え方はあるのか。

所管部長 平時での使用には、防災訓練やスポーツイベントでまずは啓発という意味で活用を考えている。なお、本市以外で災害が発生した場合には、応援という形での派遣を予定している。また、EVカーの導入については、ホンダーカーズ埼玉西と、災害時における車両等の支援に関する協定を締結するなど、公用車の拡充以外の方法においても推進を図っている。

委員 廃食油を燃料にする取組について、家庭の回収にも広げたいとの話もあったが、その点はどのあたりまで進んでいるのか。また、実際には、どの程度稼働しているのかも分かれば教えてほしい。

所管部長 まずは、公共施設のみを対象に、給食センターや保育所から出る廃油を対象としているが、今後、拡充についても、検討を進めていきたい。

委員 道路施設の日常的な維持管理について、民家から樹木の枝が道路にはみ出している箇所があり、道も狭く対応が必要と考えるが、どのような対応をされているのか。

所管部長 民有地の場合には、まずは所有者にお願いしていくことになる。また、道路の拡幅についても、所有者の方から土地を提供していただく必要があるなど、短期的な解消が難しい状況もあり、危険度・優先度を踏まえた対応に努めている。

委員 各方面において、市はできることを推進していると感じるが、行政の力だけでは限界があり、市民や企業の力を活かすことも重要であると感じる。視点を変えながら、様々な機会を捉えて、協力が可能な団体や企業へアプローチしていくことも進めてほしい。フラットな情報交換の場がもっと増えることで、連携の輪が広がり、課題解決にも繋がるのではないか。

会長 視点を変えることについては、特に、次期計画である第5次総合計画策定の際にも重要となる考え方であるので、委員の皆様も同様の考え方をもって、来年度の審議をお願いしたい。

委員 他自治体では、給食費の無償化の動きもあるが、全てを行政サービスで賄っていくのではなく、あくまでも個人ではどうにもできない部分を行政がサポートするという姿勢でよいと考えている。また、各審議会の委員の年齢制限については、高齢でも意欲のある人が増えているので、撤廃することも検討してはどうか。

市長 給食費の無償化については、本市においても必要性は認識しているところであり、様々な議論がなされたところではあるが、まずは、トイレの洋式化などの学校環境の整備を推進することの方が、優先順位が高いと判断したものである。

所管部長 審議会の年齢制限については、まさに撤廃に向けて議論を進めているところである。

会長 予算をどこに重点的に配分するのか、様々な課題がある中では、当然のことであり、そこが市民に適切に伝わるようなことが大事である。その点では、次期計画も市民に分かりやすくというところも大きなポイントであるので、その点も引き続き我々も持ち合わせていかなけれ

ばならない。

委員 屋外の河川敷の運動施設については、グラウンド状況が、経年劣化で芳しくない状況である。早急な対応は困難であることは承知しているが、もう少し維持管理にも予算を回してほしい。

所管部長 各種スポーツ団体からも要望をいただいているところである。近年は特に気候変動の影響で、草が成長する時期が長くなり、これまでの管理では追いついていないところもある。また、グラウンドの整備についても、計画的に修繕を実施していきたいと考えている。

委員 ふるさと納税に関連し、ガバメントクラウドファンディングに取り組まれている自治体もあるので、そのような動きも取っていければよいのではないか。

所管部長 企業版ふるさと納税と併せて、一部には就学支援として、実施しているところもあるが、来年度以降、積極的にチャレンジしていきたいと考えている。